

「見えるもの」から「見えないもの」を考えることを通して、

社会の担い手としての「豊かさ」を育む社会科の学習

I 研究の方向性

1 主題設定の理由

未来につながる新技術が発展し、私たちの社会は年々変化しています。こうした予測不可能な時代を生きるための資質・能力を育む上で、問題解決的な学習が大きな意味をもちます（本校社会科では、問題解決的な学習と「探究型の学び」を同義と押さえています）。社会科における問題解決的な学習について、「小学校学習指導要領解説 社会編（平成29年）」で以下のように記されています。

単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習などを指している。（下線は筆者）

「社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする」という表現を目にしたときに真っ先に浮かんだのは、社会を生きる人々の工夫や願いに心を動かされ、「自分には何ができるのだろう」「これからの社会はどうあるべきなのだろう」と熟考する児童の姿でした。

用語・語句に関する知識の習得に終始する学習では、よりよい社会の実現を目指す子供は育ちません。人の営みで成り立つ事象を対象に、社会の中で生きていくための生き方や人々が幸せになる社会の在り方について学ぶことが、社会参画への意識を高めることにつながると考えます。この学びを通して獲得できる知識や育まれる心を、宗實（2020）は「豊かさ」と表現しました。

以上のことから、研究主題を「『見えるもの』から『見えないもの』を考えることを通して、社会の担い手としての『豊かさ』を育む社会科の学習」と設定しました。

『見えるもの』から『見えないもの』を考える	事実的知識（見えるもの）の獲得で終始するのではなく、事実的知識を基に、概念的知識（見えないもの）を導き出すこと。
社会の担い手としての「豊かさ」を育む	①「社会的な見方・考え方」を働かせ、社会の仕組みへの理解を深めること（学びの豊かさ）。 ②時代の変化を受け入れながら、よりよい社会と幸福な人生を営んでいこうとする心の豊かさを育むこと。

「社会的な見方・考え方」を働かせ、人々の工夫や努力、願いといった「見えないもの」が見えるようになることで、今まで目にしてきた社会的事象がこれまでとは違って見えてくるようになると思います。こうした経験を繰り返すことが、社会の仕組みへの理解を深めること（学びの豊かさ）に加え、人々の営みに心を動かしたり、自己の生き方や社会の在り方を考えたりする心の豊かさを育むことにつながると考えます。

2 目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

社会科における「子供が創り出す『価値』」を以下のように押さえました。

①自ら問いをもって、探究することの価値	個別の問いを基に学習問題を設定し、問題解決に向けて調べたり考えたりすることを通して、理解や思考を深めたり、社会への関心を高めたりする。
②人と関わり、協働して探究することの価値	集団における自身のかかわりを自覚し、問題解決に向けて貢献しようとしたり、他者の異なる視点や考えを取り入れたりと、新たな学びを生み出す。
③探究する中で得た内容知や方法知の価値	「社会的な見方・考え方」を働かせることで、概念的知識を獲得したり、働かせた「社会的な見方・考え方」を他の問題解決の場面で生かしたりする。

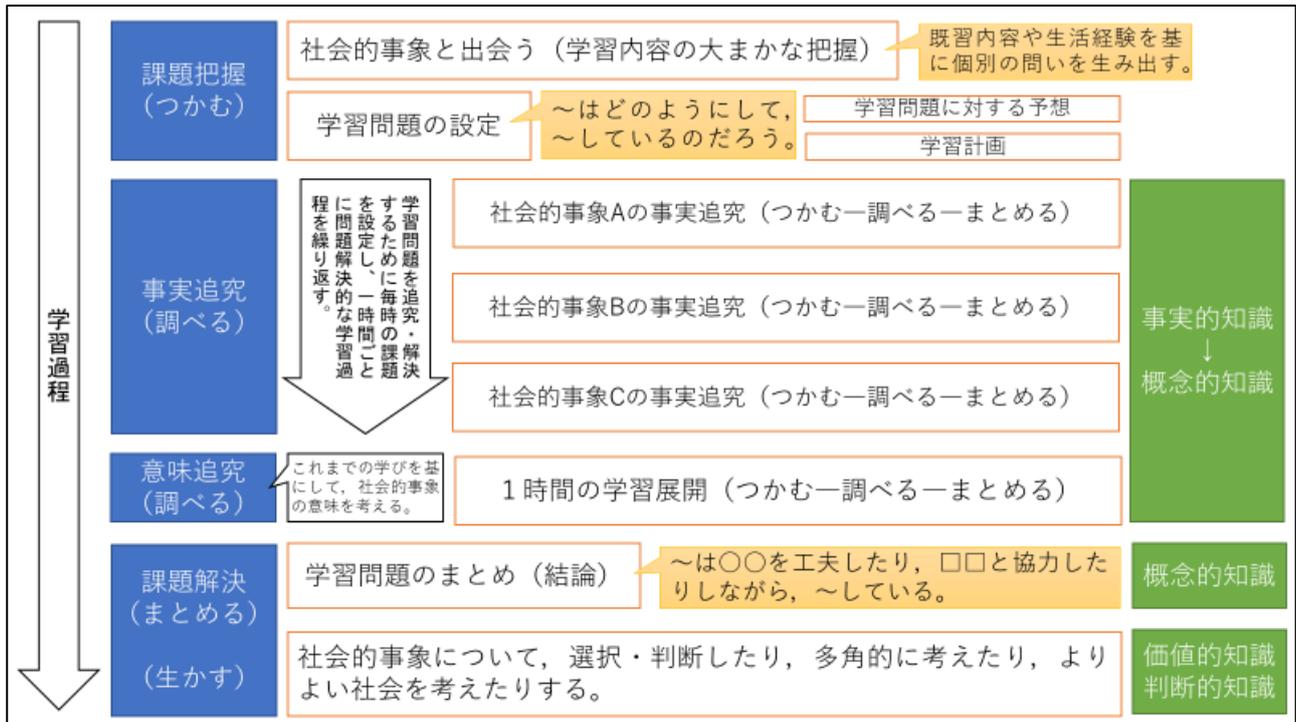
II 研究内容の具体

1 「探究型の学び」のイメージ

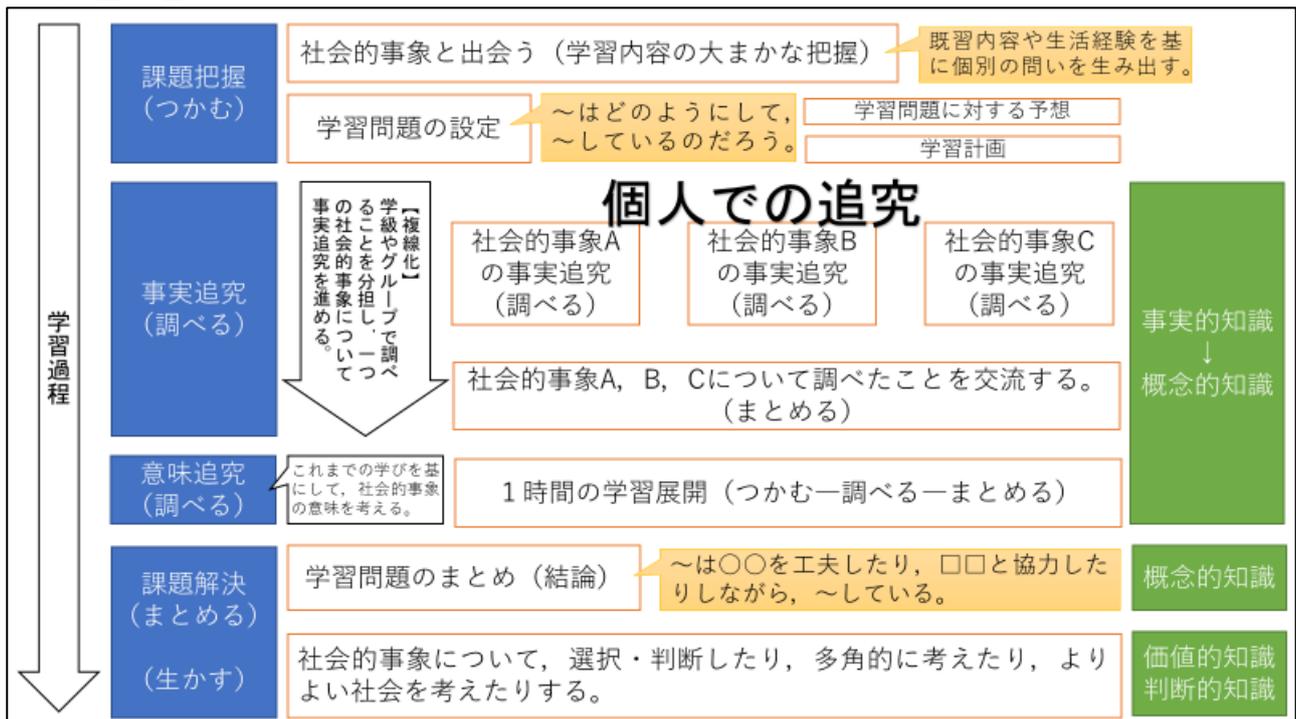
社会の担い手としての「豊かさ」を育むためには、問題解決の過程を通して、社会的事象の特色や意味など応用性や汎用性のある知識を獲得するとともに、人々の営みに心を動かしたり、自己の生き方や社会の在り方を考えたりすることが大切です。

本校社会科では、社会的事象から自ら問いを見だし、問題解決の過程を経て、学びと心の「豊かさ」を育む「探究型の学び」のイメージを以下のように押さえました。

《入れ子型構造》



《複線型構造》



《共に学ぶことの価値を見いだす学習活動の設定》

「学校が社会の縮図である」と言われるのは、多様な考えに触れることのできる場として十分に機能しているからです。しかし、共に学ぶ目的を見いだせず、学びの場が閉鎖的で独善的な考えが飛び交う空間だとしたら、自分の考えに確信を得たり新たな価値観に気付いたりすることはできなくなるでしょう。

学びの場が豊かな学びと心を育む空間として機能し続けるために、児童が互いの考えや調べたことを表現し合うことの意味に気付き、共に学ぶことの価値を見いだす学習活動について研究を進めました。

○学習問題づくりの場面で、個人の問いを共有し、グループで学習問題をつくる。

[実践例：5年「国土の気候と地形の特色」]

個人の問いを付箋にを入力し、共通点や追究する価値のあることについて議論する。

- ・グループでつくった学習問題を基に、学級で一本化する。
- ・十分に調べ活動を進めることのできる学習問題であれば、グループ毎に調べ学習を進める場合もある。

問い 7G

気候は地形が関係しているのだろうか	なぜ北と南では気温がちがうのだろうか	知床の方が北なのに、なぜ、同じ日本と同じ気候なのだろうか。	知床の、気候は、何が違うのだろうか。また、地形とどのような形をしているのだろうか。
北のほうが気温が低いのはなぜだろうか。	南のほうが気温が温かいのはなぜだろうか。	気温はなぜ南と北で違うのだろうか。	知床と小笠原諸島では、何が違う時間か、どのくらい違うのだろうか。

学習問題 7G

場所によって気候がちがうのは、どのようなことが関係しているのだろうか。また、地形は関係あるのだろうか。

○複線型の調べ学習

[実践例：5年「環境をともし守る」]

- ・児童の興味・関心に応じて追究する社会的事象や立場、視点を選択する。
- ・自分が調べたいことを追究する時間を保障することで個別学習の時間がより機能することに加え、他の社会的事象や立場、視点を選択した友達と調べたことについて交流する必然性を生む。

②全体交流の時間で、「市」「市民」が進める環境対策について友達が調べたことを聞いて記述する。

学習問題：北九州市の人々はどのように汚れていた市からきれいにするための取り組みをしているのか

①「工場」が進める環境対策について調べたことを選択し、個人で調べ学習を進める。

③双方の対策の共通点を考える。

3 子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

1時間の終末には、学びを確かめ、知識の定着をねらいとする「まとめ」の時間を設定するとともに、自分自身の学びについて振り返ります。今まで知らなかったことや、知ってはいたけれど新たな価値を見いだしたことといった知識の変容や学び方の達成状況を振り返ることで、自身の成長を期待する学び手としての豊かな心を育むことができますと考えます。

「振り返り」については、右のような視点を明示し、学び方や知識の変容を実感するとともに、次時への意欲喚起をねらいました。

◇振り返り	自分の学びと向き合う
見方	…に注目して調べました。
考え方	…と比べて、まとめて、分けて、つなげて など
立場	…の立場で考えました。
心	…と感じました。すごかったです。感動しました。
仲間	…さんの意見で…について分かりました。 …さんの…という意見がすごかったです。
成長・変化	…ができるようになりました。 授業の前と比べて…変わりました。
仮定	もし…だったら、
はてな	…にぎもんをもちました。…がふしぎだと思いました。
未来	これからは、…してみようと思いました。 これから…について知りたいです。

自然災害からくらしを守る 三時間目

⑤ いくつかのわからない雪害のために、非常食や暖かくなるものを備えておくことが大切だと思います。また、天気予報をチェックしたり、今の状況を判断することが大切です。

私の家や車には毛布や非常食がないので、できるだけ備えられるものは備えておこうと思いました。また、備えることの大切さが、この学習を通して改めてしたので家族にも伝えようと思います。

未来

⑤ [] 君の意見がいいと思いました。私とけんせい君は同じ意見で困ってましたが理由がちがいました。けんせい君は「はやく人にしらせるため」といっていました。ああ、たしかにそうかも私はな、とくしました。また、「数年に一度」という言葉にそんな思いが込められていてことは、知りませんでした。とても深い授業でした。

仲間

Ⅲ 研究実践

4年生実践 『残したいもの 伝えたいもの』

実践のテーマ：地域の文化財，年中行事の共通点を考え，それらを受け継いできた人々の願いを理解する学習

1 研究授業のねらい

地域の文化財，年中行事について調べたり，それらの保存・継承に関わってきた人々の願いを考えたりすることを通して，地域社会の一員として伝統や文化の保存・継承に関わって自分たちにできることなどを考えようとする態度を養うことをねらいとしました。調べ学習においては，「旭川市彫刻美術館（旧偕行社）」「アイヌ古式舞踊」「旭川冬まつり」から児童の興味・関心に応じて選択した一つの社会的事象について調べ，調べたことを全体で交流する複線型の展開としました。学習のまとめとして，問題解決の過程で学んだことをポスターやスライドといった表現方法で学びを整理するとともに，自己の関わり方や理想の社会の在り方について考えました。

本時では，調べ学習で各自が調べたことを基に，旭川市彫刻美術館（旧偕行社），アイヌ古式舞踊，旭川冬まつりの3つの社会的事象の共通点を考えました。自分が主に調べてきたことと他者が調べてきたことを関係付けることによって，それぞれの文化財や年中行事の特色に加え，その背景にある保存・継承に関わってきた人々の願いを理解することをねらいました。

2 単元の指導計画（8時間扱い）

段階	時間	◇主な学習活動・資料	評価方法 【評価規準】 ※網掛けは記録に残す。	見方	考え方
課題把握	①	◇旭川市にある古くから残っているものを出し合い，「建物」「祭り」「芸能」の視点で分類する。 ◇旭川市彫刻美術館（旧偕行社），アイヌ古式舞踊，旭川冬まつりが残された理由を考え，学習問題をつくる。 学習問題：旭川市彫刻美術館（旧偕行社），アイヌ古式舞踊，旭川冬まつりは，なぜ，今も残り続けているのだろう。また，文化の存続にどのような人が関わっていて，どのようなことを伝えたいのだろうか。	ノートの記述や発言から，「文化財や年中行事が残された理由について考え，自分なりの問いを見いだしているか」を評価する。 【態】	関係的 時間的	比較・分類
	②	◇学習問題に対する予想を基に，学習計画を立てる。 学習計画 ①個人で調べる。 ・特色・歴史・関わっている人（の願い） ②調べたことを全体で交流する。 ③学習したことをスライドやポスターにまとめる。	ノートの記述や発言から，「文化財や年中行事が保存，継承される意味について表現しているか」を評価する。 【思】 ノートの記述や発言から，「学習問題に対する予想や問題解決の見通しをもつことができているか」を評価する。 【態】	関係的 時間的	国民の生活と 関連付け
事実追究	③ ④	◇旭川市彫刻美術館（旧偕行社），アイヌ古式舞踊，旭川冬まつりについて，特色，歴史，関わっている人（の願い）について調べる（複線化）。 ・副読本の資料・映像資料（アイヌ古式舞踊） ・施設，行事等のホームページ	ノートの記述から，「地域の文化財や年中行事は，地域の人々が受け継いできたこと，それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解しているか」を評価する。 【知】	関係的 時間的	国民の生活と 関連付け
	⑤（本時）	◇旭川市彫刻美術館（旧偕行社），アイヌ古式舞踊，旭川冬まつりについて，特色，歴史，関わっている人（の願い）について調べたことを交流する。 ・旭川冬まつりのポスター	発言やノートの記述から，「文化財や年中行事は，地域の人々が受け継いできたこと，それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解しているか」を評価する。 【知】	関係的 時間的	総合
意味追究	⑥	◇旭川冬まつりをオンライン開催した理由を考える。 ・旭川冬まつりのポスター，ホームページ	発言やノートの記述から，「文化財や年中行事が保存，継承される意味について表現しているか」を評価する。 【思】	関係的 時間的	国民の生活と 関連付け
課題解決	⑦ ⑧	◇学習問題に対するまとめと自分の関わり方を考える。 旭川市彫刻美術館（旧偕行社），アイヌ古式舞踊，旭川冬まつりには，人々を幸せにするよさや楽しませる魅力があり，それを未来に残し続けたいと願う人の努力によって残り続けてきた。旭川市に古くから伝わる行事に積極的に参加したり，よさをたくさんの人に伝えたりしていきたい。 ◇問題解決の過程で学んだことをポスターやレポートなどにまとめる。	ノートから「地域の伝統や文化の保存・継承に関わって自分たちにできることなどを考えたり，選択・判断したりして表現しているか」を評価する。 【思】 表現物から「文化財や伝統行事について，予想や学習計画を立てたり見直したりして，主体的に学習問題を追究し，解決しようとしているか」評価する。 【態】	関係的 時間的	総合

3 本時の学習

(1) 本時の目標

旭川市彫刻美術館（旧偕行社）、アイヌ古式舞踊、旭川冬まつりについて調べたことから共通点を見だし、地域の文化財や年中行事には、「地域の発展」や「人々の豊かな暮らし」といった保存・継承に関わる人々の願いが込められていることを理解する。

(2) 本時の展開（8時間扱いの5時間目）

◇学習活動 ・ 予想される児童の姿	研究との関わり・留意点						
<p>1 学習計画から、本時の課題を確認する（3分）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前は、それぞれが旭川市彫刻美術館（旧偕行社）、アイヌ古式舞踊、旭川冬まつりについて調べてきた。 ・ 調べてきたことを基に交流して、共通点を考えよう。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">課題：旭川市彫刻美術館（旧偕行社）、アイヌ古式舞踊、旭川冬まつりには、どのような共通点があるのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習計画を想起させる。 						
<p>2 それぞれが調べてきたことについて全体で交流する（7分×3）。</p> <table border="1" data-bbox="162 840 853 1041"> <thead> <tr> <th data-bbox="162 840 395 873">彫刻美術館（旧偕行社）</th> <th data-bbox="395 840 627 873">アイヌ古式舞踊</th> <th data-bbox="627 840 853 873">旭川冬まつり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="162 873 395 1041"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国に重要文化財に登録されている。 ・ 旭川市の文化や歴史を伝える建物として守られている。 </td> <td data-bbox="395 873 627 1041"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神への感謝の気持ちが込められている。 ・ 多くの人たちに知ってもらえるように様々な場所で踊られている。 </td> <td data-bbox="627 873 853 1041"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の寒さや雪を魅力あるものにしたという願いが込められている。 ・ 市民も楽しんで参加できるような工夫をしている。 </td> </tr> </tbody> </table>	彫刻美術館（旧偕行社）	アイヌ古式舞踊	旭川冬まつり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国に重要文化財に登録されている。 ・ 旭川市の文化や歴史を伝える建物として守られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神への感謝の気持ちが込められている。 ・ 多くの人たちに知ってもらえるように様々な場所で踊られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の寒さや雪を魅力あるものにしたという願いが込められている。 ・ 市民も楽しんで参加できるような工夫をしている。 	<p>◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン 研究視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて、自分が調べていない社会的事象に関する情報をワークシートに記入させる。
彫刻美術館（旧偕行社）	アイヌ古式舞踊	旭川冬まつり					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国に重要文化財に登録されている。 ・ 旭川市の文化や歴史を伝える建物として守られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神への感謝の気持ちが込められている。 ・ 多くの人たちに知ってもらえるように様々な場所で踊られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬の寒さや雪を魅力あるものにしたという願いが込められている。 ・ 市民も楽しんで参加できるような工夫をしている。 					
<p>3 3つの社会的事象の共通点を考え、交流する（7分）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれによさがあり、願いをもって伝えようとしている人がいる。 ・ 伝えられることで、人々が幸せになっていく。 ・ 地域が発展することを願っている。 <p>4 旭川冬まつりのポスターに書かれた「みんなの冬」の意味についてペアで交流する（5分）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「みんな」に冬のよさを知ってほしい。 ・ 「みんな」という言葉を使うことで「市民」で楽しむ行事にしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の願いに着目できていない場合は、「これらの文化が残っていくことのよさは何だろう。これらの文化が残っていくと…の続きを考えてみましょう。」と発問する。 ・ 2022年の旭川冬まつりのポスターを提示する。 ※「みんな」の部分は、マスキングして提示し、マスキングされた部分に入る言葉を予想させる 						
<p>5 まとめを書き、全体でまとめる（6分）。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>旭川市彫刻美術館（旧偕行社）、アイヌ古式舞踊、旭川冬まつりには、地域が発展してほしい、人々の生活が豊かになってほしいといった願いが込められている。</p> </div> <p>6 本時の学習を振り返る（3分）。</p>	<p>◇社会の在り方や自己の生き方を問い続ける姿を見取る評価 研究視点3</p> <p>旭川市彫刻美術館（旧偕行社）、アイヌ古式舞踊、旭川冬まつりについて調べたことから共通点を見だし、地域の文化財や年中行事には、「地域の発展」や「人々の豊かな暮らし」といった保存・継承に関わる人々の願いが込められていることを理解している。（発言・ノート）</p>						

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

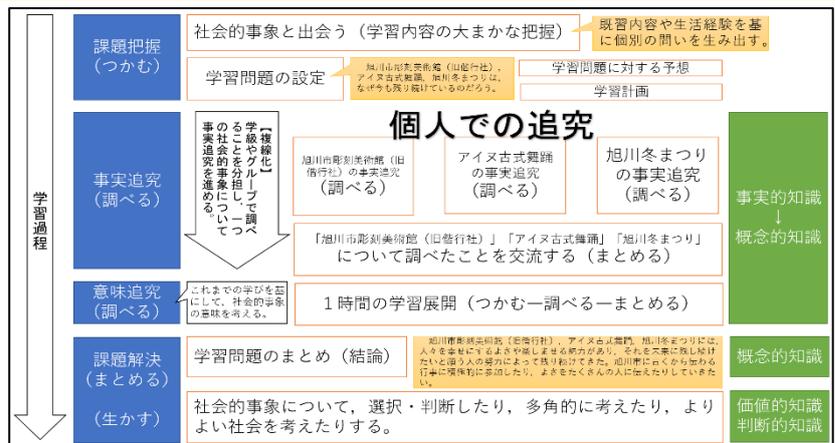
自分が調べてきたことと他者が調べてきたことを関係付けることによって、文化財や年中行事の背景にある保存・継承に関わってきた人々の願いを捉え、表現している姿。

4 授業の実際

共に学ぶことの価値を見いだす学習活動の設定

共に学ぶことの価値を見いだすためには、自らの問いをきっかけとして社会的事象について調べ、調べたことを交流する中で、自他の解釈を基に学びを深めることが大切だと考えました(図1)。その手立てとして、以下の2点を重視しました。

- ①調べる時間を保障する。
- ②調べたことを交流する時間を設定する。



【図1 探究型の学びのイメージ (複線型構造)】

調べる時間を十分に確保するためには、自ら問いをもつこと、そして、何について調べていくのか見通しをもつことが大切だと考えました。単元2時間目の課題把握の学習で、A児は、学級の総意で決定した「旭川市彫刻美術館(旧借行社)、アイヌ古式舞踊、旭川冬まつりは、なぜ、今も残り続けているのだろう。」という学習問題に対して、「文化と歴史があり、市民や外国の方に親しまれ、愛され続けてきたから。」という予想を立てました。予想を立てることによって調べることが明確になり、関わっている人、歴史、文化について調べていく見通しをもつことができました。

【学習問題】
旭川市彫刻美術館(旧借行社)、アイヌ古式舞踊、旭川冬まつりは、なぜ、今も残り続けているのだろう。また、文化の存続にどのような人が関わっていて、どのようなことを伝えたいのだろうか。

【調べること】
・文化や施設の違い
・どのような人がどのようなことを伝えたいのか
・どのような歴史や文化があるのか
友 残した人の考え、生き方 もしなかったら…

【振り返り】
今日は、学習問題にある①～③のことについて予想をし、みんなで交流をしたり、調べたことを書いて、計画をしました。①～③のことを予想して、なんで残り続けているのだろう、どのような人がどのようなことを伝えたいのかと、想像が膨らみました。大西くんの、残した人の考えという意見が良いと思いました。なぜなら、どのようなことを期待してという意味にもなるので、気持ちという言葉とは違い意味なので、いいと思いました。これからは、計画をしたことを調べて、色々な文化や歴史について知りたいです。

予想
①昔からあって、文化と歴史があり、市民や外国人の方などに親しまれ、愛され続けているから。
友 旭川のシンボル 知ってほしい

予想
②文化や歴史があるものを沢山の人の人知ってもらいたいと思っている人
友 それを見る人、見る人、先祖の方がいる→受け継ぐ 開いている人

予想
③文化や歴史があり、受け継がれてきたものを、そのことを知らない沢山の人の人知ってもらい、体験してもらいたいと思ったから。
友 今の人の人にとって身近になってほしい

【A児の2時間目のワークシート】

本単元では、自らの興味・関心を基に社会的な事象について深く調べることに加え、他の社会的な事象や立場、視点を選択した友達と調べたことについて交流する必然性を生むことをねらい、複線型構造で学習を進めました。

B児は、「旭川冬まつり」を選択し、旭川市役所観光課の方へのインタビュー活動で学んだことを基に、「冬まつり実行委員の方が、『国内外からの観光客の方に旭川のよさを知ってもらいたい』という願いをもっている」ことを捉えました。さらに、互いに調べたことを交流する場面で、「文化財や年中行事に携わる人の願い」に着目し、その共通点として「残していきたいと思った人の、より多くの人に知ってもらいたいという思いや願いが今の時代までに伝わってきて

※ 旭川冬まつり ※

【どのような文化なのか～歴史・特徴】
・1960(昭和35)年から60年以上続いている
・毎年約100万人が来場する、「さっぽろ雪まつり」に次ぐ、冬の北海道の一大イベント
・大きく分けて2つの会場で開催されている(旭川河畔会場) 大雪像などがあるメイン会場(平和通り買物公園会場) 氷彫刻世界大会開催
・「あさひかわ雪あかり」や「ウェルカム雪だるま」など市民参加型のイベントである
・毎年ゲスト出演やアトラクション、花火、冬マルシェなど、誰でも楽しめる工夫がある

【旭川冬まつりに関わっている人】
・旭川冬まつり実行委員会、企画委員会
・旭川観光コンベンション協会
・旭川市役所観光課
・旭川陸上自衛隊 第2師団(雪像制作)
・協力応援企業・冬マルシェ出店、店舗
・マスコミ関係者(テレビ局、新聞社など)

【どのようなことを伝えたいと願っているか】
○旭川冬まつり実行委員会の方の話
『旭川の冬は大雪と厳しい寒さ』というイメージをくづがえし、冬でも魅力あふれる市であるという思いを持ってほしいと願い、冬まつりを運営している。』
→つまり～旭川市民の冬の暮らしに楽しさを与えるため(特に子どもたち)
○旭川市役所観光課の方の話
『夏の観光に比べ半減する冬期観光客の増加のため、冬まつりと連携したイベントを企画している。雪のない地域や外国からの観光客の方々にも雪を体験してほしい。』
→つまり～国内外からの観光客に旭川の良さを広く知ってもらうため

【生かし方】
・旭川の厳しい冬を、逆に楽しいイベントに変えることで注目や人気を集めた冬まつり。コロナ渦で会場の開催は中止となったが、HPでの宣伝やオンライン開催など工夫し存続している。今後もっとなげっていくために私たちが積極的に参加したり、他の地域の人たちにもっと宣伝したりすることが大切だと思う。
※たとえば…市民雪像作りや雪あかり作りへの参加、ポスターや動画制作、海外へのSNS発信、募金集めなど

【B児の調べ学習時のワークシート】

いる。」と表現しました。視点をもって調べ学習を進めることで、その視点を用いて他の社会的事象を捉えようとする思考が働くようになり、共通点や社会的事象の意味や特色といった汎用性のある知識を獲得することにつながりました。

◎共通点	
・残していきたいと思った人の	より多くの人に知ってもらいとおもう願いや気持ちから今まで伝わってきている。
・旭川市などの	たくさんのひとが楽しむためにある。

【交流学习時のB児のワークシート】

子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫（振り返りの視点の明確化）

自身の学びや学び方について振り返ることが、探究の原動力となり、学びと心の豊かさにつながっていくと考えました。そこで、課題に対する答えとして学習内容を自分の言葉でまとめたり、学び方や知識の変容について振り返ったりする時間を1単位時間の終末部に設定しました。また、右の表のような振り返りの視点を明示することで、振り返りの視点を自ら選択することができるようにしました。

振り返り	自分の学びと向き合う
見方	…に注目して調べました。
考え方	…と比べて、まとめて、分けて、つなげて など
立場	…の立場で考えました。
心	…と感じました。すごいと思いました。感動しました。
仲間	…さんの意見で…について分かりました。 …さんの…という意見がすごと思いました。
成長・変化	…ができるようになりました。 授業の前と比べて…変わりました。
仮定	もし…だったら、
はてな	…にきもんをもちました。…がふしぎだと思いました。
未来	これからは、…してみようと思いました。 これから…について知りたいです。

【振り返りの視点】

C児は、本時において「成長・変化」、「未来」の視点で振り返り、「文化財にも年中行事にも関わる人々の願いが込められている」ことを捉え、学びの変容について自覚しました。振り返りの視点の中から学習を終えた自分の姿として適切に表現できるものを選択することによって、自分の課題を解決するに至った過程を自分自身で見直し、次時以降の学び方を見通したり、調整したりすることができました。

【まとめ】	3つの文化に関わっている人たちの願いは、より多くの人達に知ってもらって、次の世代の笑顔を作り、笑顔が世界中に広がっていくためにしている。
【振り返り】	私は課題を見返して、交流をするまで、建物と行事で全然違うのに共通点なんてあるのかな、と思っていたけど、みんなで交流してから、より多くの人に知ってもらいたいという願いや、次の世代のみんなの笑顔を願っていることが共通していることを知って、種類が違っても、思いは同じなんだな、と思い、びっくりしました。 これからも、色々な文化について調べて、どのような文化なのかということ調べてるのはもちろん、歴史や関わっている人たち、そして、残そうとした人の気持ちや考え、願いについて調べて、学びを深めて、文化について知り、考えていきたいです。

【C児の本時のまとめと振り返り】

IV 1年次研究の成果と課題

1 研究の成果

- 学習問題に対する予想を立てる活動を重視することで、調べ学習における視点が明確になり、主体的な問題解決につながりました。
- 複線型構造で学習を進めることで、調べ学習で用いた視点や獲得した知識を介して、他の社会的事象との共通点や特色を考えるなど、学びの転用を図ろうとする姿が見られました。
- 振り返りの視点を基に学習を振り返ることで、学習後の自分の状態をより適切に表現することができ、次時以降の学び方を見通したり、調整したりすることにつながりました。

2 今後の課題

- 調べ学習において事実的知識の獲得に終始してしまい、「自分なりの解釈」を生み出すことのできない児童への手立てについて明らかにする必要があります。
- 振り返りの場面において、獲得した知識については自覚するものの、「学び方の変容」を捉えることに難しさを感じている児童への手立てについて明らかにする必要があります。

V 引用・参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 文部科学省 日本文教出版 平成29年6月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 社会】
国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 令和2年6月
- 「令和の『日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」 中央教育審議会 令和3年1月
- 初等教育資料No. 1022「学習指導要領における指導のポイント【社会】」 文部科学省
東洋館出版社 令和4年7月
- 社会科教師の授業・学級づくり「仕掛け学」 小倉勝登 東洋館出版社 令和2年7月
- 宗實直樹の社会科授業デザイン 宗實直樹 明治図書 令和3年2月
- 社会科「個別最適な学び」授業デザイン理論編 宗實直樹 明治図書 令和5年1月